

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

1. 自分の意見を堂々と言える能力の育成
2. 得意技を身につけさせる
3. 進路指導の強化

2 中期的目標

1. 学力を向上させる

- (1) グローバル科及び現在普通科に設置しているグローバルコースを軸に、より高い志と実力を兼ね備えた人材を育成する。
- (2) 学習の目標を明確に理解させる
- (3) 学習・部活・行事のバランスのとれた教育活動を推進する。
- (4) 少人数展開授業により学習理解を深化させる。
- (5) 3年生において入試対策に向けた学習がより効果的に進められるよう、1・2年生の学習内容の定着を図る。
- (6) 学力向上に向け、家庭との連携を深める。
- (7) 土曜日を学習活動のために有効活用する。
- (8) 教員の授業力を向上させる。

※教育産業模試(11月)の偏差値平均

| | <1年グローバル科> | | | <1年普通科> | | | <2年グローバル科> | | | <2年普通科> | | |
|----------|------------|-------|-------|---------|-------|-------|------------|--------|-------|---------|--------|-------|
| | 国 | 数 | 英 | 国 | 数 | 英 | 国 | 数 | 英 | 国 | 数 | 英 |
| 平成 26 年度 | 56 以上 | 55 以上 | 60 以上 | 53.5 以上 | 53 以上 | 53 以上 | 58 以上 | 55 以上* | 60 以上 | 53 以上 | 53 以上* | 53 以上 |
| 平成 27 年度 | 56 以上 | 55 以上 | 60 以上 | 53.5 以上 | 53 以上 | 53 以上 | 58 以上 | 55 以上* | 60 以上 | 53 以上 | 53 以上* | 53 以上 |

*は、3年生で数学が必要な生徒対象

※学校教育自己診断（授業外の学習機会）に対する生徒の肯定的回答 90%以上を毎年維持。

※家庭学習時間の目標を達成する。<1年生>グローバル科：18.5時間、普通科：12.5時間

(時間数は週単位)

<2年生>グローバル科：文系 19.5時間/理系 19.5~20時間、普通科：文系 14時間/理系 14.75~15.25時間

※1月の生徒による授業評価で、3ポイント(1~4ポイントで評価)以上の教員を、平成26年度以降70%以上とする。

2. 論理的思考力、批判的思考力及び表現力を鍛え、他人を説得する力を身につけさせる

- (1) IM（グローバル科「学校設定科目」及び普通科「総合的な学習の時間」において開講）で論理的思考力及び批判的思考力育成する。
- (2) 各教科において、積極的に自分の意見を述べる態度を育成する。
- (3) 学校行事の企画を通して、問題解決能力や交渉能力を醸成する。

※IMに対する生徒による授業評価3ポイント以上を毎年維持（23年度2.57ポイント/24年度3.16ポイント/25年度1年3.20ポイント、2年2.46ポイント）。

3. 得意技を身につけさせる

- (1) 総合的な英語力を身につけさせる事業を推進する。
- (2) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する。

| ※TOEFL スコア | TOEFL iBT80点/ITP550点以上 | TOEFL iBT60点/ITP500点以上 | TOEFL iBT45点/ITP450点以上 | (3年生受験者の得点) |
|------------|------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 平成 26 年度 | 12名以上 | 40名以上 | 64名以上 | (人数は累計/80名受験) |
| 平成 27 年度 | 12名以上 | 40名以上 | 64名以上 | (人数は累計/80名受験) |
| 平成 28 年度 | 12名以上 | 40名以上 | 64名以上 | (人数は累計/80名受験) |

※留学生10名以上（短期含む）毎年維持。 ※3年生理系選択者25%以上を毎年維持。

4. 進路指導を強化する

- (1) 入学時から難関大学の合格難易度について情報提供し、自らの進路目標を立てさせる。
- (2) 定期的に学習習熟度を測定しながら、進路実現に向け支援する。
- (3) 「一流」を見せ、将来の進路を考えさせる。
- (4) 外部団体との連携により進路情報を提供し、進路選択を支援する。

※学校教育自己診断（きめ細かな進路指導）に対する生徒・保護者の肯定的回答を毎年70%以上維持

| ※大学合格数 | 京大・阪大・神大・早大・慶大・上智・海外大等 | 大阪市大・大阪府大・同志社・立命・関学等 | 関大・和大大 |
|----------|------------------------|----------------------|--------|
| 平成 26 年度 | 15 | 75 | 120 |
| 平成 27 年度 | 15 | 75 | 120 |
| 平成 28 年度 | 15 | 75 | 120 |

5. 心身の障がいや家庭環境などの課題によって修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ個別のケースに対応する。
- (2) 支援を必要とする生徒・保護者への相談体制を整える。
- (3) 教育相談室の活用を進める。

※学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）に対する生徒・保護者の肯定的回答70%以上を毎年維持

6. 教育効果を向上させるため校務改革を実行する

- (1) 教科主任会を学習活動の軸に据える。
- (2) 将来構想委員会及びグローバル委員会を中心に、学習効果をあげるための新しい施策を企画・実行する。
- (3) 公務の権限と責任所在を明確にし、校内連携を進める。
- (4) 学校協議会の提言を参考にしつつ、学校教育の改善を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| ほとんどの項目において昨年度より実現度の数値が上がっている。 本校の教育目標の1つである得意技を身につけるという生徒が少なく、これを増加させていくことと、家庭での勉強時間の不足をどうにかして増加させることが課題である。 また、記述部分で服装指導の強化を望む声が多い。 | 第1回(5月23日)本校の教育目標に従って、計画通り事業を進めていくことを確認した。 第2回(8月29日)生徒が能動的に取り組むような仕掛けを作っていく必要がある。 第3回(1月7日)①模試の順位を公表するなど生徒を刺激することにより、生徒が目標を持ち積極的に学習するような仕掛けを作る必要がある。 ②タブレットや書画カメラ等のICTの活用の検討をしていく必要がある。 ③学校教育自己診断にもあるようにトイレのにおいが気になるようなので施設面での配慮も必要である。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--------------------|---|--|--|---|
| <p>1. 学力を向上させる</p> | <p>(1) ①学校設定科目「英語超人」において実践的な英語力を育成する。 ②数学・英語・理科の力を伸ばす。 ③1年生から入試問題を視野に入れた学習を進める。</p> <p>(2) ①学習の目標を明確にし、学習への意識を高める。 ②学習方法を示し、授業と家庭学習を無駄なく連動させて学習効果を上げる。 ③家庭学習量の適性化を図る。 ④学年及び教科が戦略的に学習指導を行う。</p> <p>(4) ①進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める。 ②英語のリスニング力やライティング力を向上させる。</p> <p>(5) ①本校生徒として最低限必要な学力を定着させる。 ②1・2年生で入試の基盤となる学力の定着を徹底する。 ③学習到達度を把握し、授業内容を改善する。</p> <p>(6) ①講習の日程をまとめた資料を保護者に通知する。 ②1・2年生において、平素の授業態度、課題の提出状況、小テストの結果等を保護者に通知する。</p> <p>(7) ①1年生のグローバル科及び2年生グローバルコース全員対象に毎週の土曜講習を実施する。 ②土曜日の午前11時まで部活を制限し、全校一斉に学習活動に充てる。</p> <p>(8) ①生徒による授業評価を活用し教員の資質を向上させる。 ②各教科で研究授業を実施し、授業改善を図る。</p> | <p>(1) ①学校設定科目「英語超人」において、TOEFLの高得点をめざす授業を実施し、英語の4技能(読・聞・書・話)の力を育成する。 ②数学・英語・理科の土曜講習を実施する。 ③各教科の学習進度を速め、1年生から平易な入試問題に取組ませることで入試への実践力をつけさせる。</p> <p>(2) ①新入生ガイダンスを実施し、3年間を鳥瞰した各教科の学習内容や目標・目的及び学習方法を理解させる。 ②新入生ガイダンスにおいて、各教科担当者が授業の進め方や家庭での学習時間の枠を意識した家庭での学習方法について説明を行う。</p> <p>(3) ①学年主任及び教科主任が連携し定期的に家庭学習量を調査し、家庭学習量の適性化を図る ②定期考査、テスト、学習生活実態調査、及び模擬試験の結果を学年及び教科が共有し、学習指導や生活指導を効率的に進める</p> <p>(4) ①数学Ⅱにおいて進路・習熟度別に講座編成する。2クラスを文系2講座及び理系1講座に3展開する。2学期からは文系2講座を習熟度別に再編する。 ②「英語超人」及び英語表現ⅠにおいてLL機器を活用しリスニング力の強化を図る。また、NETによる英作文の添削によりライティング力を向上させる。</p> <p>(5) ①1, 2年生の各定期考査において、成績不振者に対する補習及び確認テストを行う。 ②1, 2年生の普通科では、授業内容を詰め込みすぎず、基礎固めの小テスト・演習を繰り返しながら確実に教科書の内容を理解・定着させる。小テスト等の成績や宿題等の提出状況が悪い生徒は、放課後において課題に取り組ませる。 ③1・2年生においては学習生活調査及び模試の結果を分析し、生徒に定着していない学習内容を把握した上でその後の授業内容を改善する。</p> <p>(6) ①各学期及び長期休業前に講習日程を生徒に通知するとともに、保護者にもメール等で通知する。 ②1・2年生において、6月・11月の保護者懇談会において通知する。9月に保護者あてに郵送する。</p> <p>(7) ①1, 2年生グローバル科の生徒を対象に、数学、理科(2年生のみ)及び英語の演習を中心とした講習を毎週土曜日の午前中にそれぞれ2コマずつ実施する。 ②土曜日の午前11時までの時間を活用し、普通科の希望生徒を対象に講習を実施する。</p> <p>(8) ①授業評価を1学期末と2学期末実施する。授業評価は教員に分かりやすくするため数値化する。 1・2学期末において授業評価が思わしくない教員は、授業改善計画を作成し授業改善に努める。 ②教員相互の授業見学期間を設定し、お互いの指導方法について検討し、授業改善を図る。 ③国・数・英・社・理の各教科において、若手とベテラン教員による研究授業をそれぞれ1回以上実施し、授業改善を図る。</p> | <p>(1) ①②③教育産業模試(11月)偏差値平均 1年グローバル科 国 56 以上/数 55 以上/英 60 以上 2年グローバル科 国 58 以上/数 55 以上/英 60 以上</p> <p>(2) 新入生ガイダンスの実施後のアンケート結果、肯定的な回答 90%以上</p> <p>(3) 週当りの家庭学習時間校内平均(2学期初) <1年生> グローバル科：18.5時間 普通科：12.5時間 <2年生> グローバル科：文系 19.5時間/理系 19.5~20時間 普通科：文系 14時間/理系 14.75~15.25時間 <3年生> 進路目標により学習時間が違うため指標設定しない。</p> <p>(4) ①教育産業模試(11月)数学の学年平均偏差値 グローバル科 55 以上 普通科 53 以上 ②2年生のセンター試験リスニング模擬受験結果、校内平均 22 点以上</p> <p>(5) ①学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答 90%以上</p> <p>②③ 教育産業模試(11月)偏差値平均 1年生普通科 国語 53.5 以上/数学 53 以上/英語 53 以上 2年生普通科 国語 53 以上/数学 53 以上/英語 53 以上</p> <p>(6) ①学校教育自己診断「進路に関する情報提供」に対する保護者の肯定的な回答 80%以上 ②家庭学習時間 上記(3)を参照</p> <p>(7) ①② 教育産業模試(11月実施)偏差値平均 1年グローバル科 数学 55 以上/英語 60 以上 1年生普通科 国語 53.5 以上/数学 53 以上/英語 53 以上 2年グローバル科 数学 55 以上/英語 60 以上 2年生普通科 国語 53 以上/数学 53 以上/英語 53 以上</p> <p>(8) 生徒による授業評価 「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」という問いに対して 「そう思う」...4、「だいたいそう思う」...3、「あまり思わない」...2、「思わない」...1で評価 12月の授業評価で、3ポイント以上の教員が 70%以上</p> | <p>(1) 1年グローバル科 国 54.7/数 51.6/英 56.5 2年グローバル科 国 52.3/数 48.7/英 54.5 ただし、2年数学は来年度数学を選択する生徒。 設定目標が高く達成には至らなかった。 (△)</p> <p>(2) 新入生ガイダンスの実施後のアンケート結果、肯定的な回答 91.7% (○) 昨年度 86.9%</p> <p>(3) より現実に近い数値を得るため1月中旬に調査したが、目標には達していない。(△) <1年生> グローバル科：4.4時間 普通科：5.8時間 <2年生> グローバル科：文系 8.2時間/理系 8.5時間 普通科：文系 6.8時間/理系 8.0時間 授業アンケートの結果も合わせ、生徒に学習習慣をつけることを考えることが急務である。</p> <p>(4) ①グローバル科 48.7 普通科 47.9 ただし、来年度数学を選択する生徒効果は十分に見られるものの目標は達成できなかった。(△) ②1月受験予定</p> <p>(5) ①93.7% (○) 昨年度 91.8%</p> <p>②③(△) 1年生普通科 国語 52.2/数学 51.8/英語 50.6 2年生普通科 国語 48.3/数学 47.9/英語 49.8 ただし、2年数学は来年度選択する生徒設定目標が高く達成できなかった。</p> <p>(6) ①78.8% (△) 昨年度 79.3% ②送付は9月実施したが、家庭学習時間の飛躍的な改善にはつながっていない様子。(△)</p> <p>(7) ①② (△) 1年グローバル科 数 51.6/英 56.5 1年生普通科 数学 51.8/英語 50.6 2年グローバル科 国 52.3/数 48.7/英 54.5 2年生普通科 国語 48.3/数学 47.9/英語 49.8 ただし、数学は来年度選択する生徒。土曜講習のあり方も見直し、より効果のあるものを実施していきたい。 (8) (○) 3ポイント以上 74名中 63名 85.1% (昨年度 84.1%—昨年度 64%) 生徒からの評価は確実に高くなっている。非常勤職員で評価の低い割合が高い。評価の低い教員に授業改善に取り組ませていく。</p> |

府立和泉高等学校

| | | | | |
|---|--|---|---|--|
| 2. 問題解決能力、論理的思考力、判断力、及び他人を説得する力を身につけさせる | <p>(1)</p> <p>①論理的思考力・批判的思考力を育成する。</p> <p>②説得力のある論理的な文章を作成する能力を育成する。</p> <p>(2)</p> <p>①教科学習の中で問題を解く力を育成する。</p> <p>②特別企画の中で、多角的な情報収集による判断力や説得力を育成する。</p> <p>(3)</p> <p>①学校行事での新たな企画を推奨する</p> | <p>(1)</p> <p>①論理的思考力・批判的思考力を育成するための教材を作成し、筋道を通った伝え方、筋道を通らない意見への指摘の仕方を学ぶ。</p> <p>②論理的な組み立てによる小論文作成力を習得させ、学校設定科目「グローバル情報」及び「社会と情報」と連携してパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。</p> <p>(2)</p> <p>①教科指導において知識伝達のみ重点をおかず、解法の糸口を見つける力を育むよう授業内容を工夫する。</p> <p>②(ア)「平和と国防を考える」、「環境問題を考える」などの特別企画を実施する。</p> <p>(イ) 2年サイパン修学旅行において日本・台湾・サイパンの高校生による自主企画を実施する。</p> <p>(ウ) 1学期末考査後にトロピカルデー（この日は制服ではなくトロピカルであることを説明できる服装で登校してもよい）を設ける。</p> <p>(エ) その他「正解がひとつではない」問題の思考の機会を積極的に与える。</p> <p>(3)</p> <p>①新たな企画を生徒に推奨し、企画実現のため関係機関(学校を含む)と交渉させる機会を生徒に与える。</p> | <p>(1)</p> <p>①② IMに対する生徒による授業評価3ポイント以上</p> <p>1年生全員が、自分が興味関心のある事項について自分の意見をプレゼンテーションソフトで発表できるようになる。</p> <p>(2)</p> <p>①生徒による授業評価1. (8) 参照</p> <p>②実施後のアンケートで肯定的な回答 90%以上</p> <p>(3)</p> <p>新企画の実現</p> | <p>(1) (◎)</p> <p>①② 1年生 3.2(昨年度 3.2) 2年生 3.3(昨年度 2.5)</p> <p>昨年度は1年次で学んだ事を教科に活用する2年での授業評価が低かったが、研究を重ねて本年度は2年生でも評価が高かった。</p> <p>(2)</p> <p>①(◎) 1. (8) と同じ</p> <p>② (ア)(◎)100% (イ)(◎) (ウ)(◎)1月31日実施予定</p> <p>(3) (△) 文化祭等での企画は維持できたが、新たなものに挑戦はできなかった。オープンキャンパスにおける生徒の説明が評判が良かった。</p> |
| 3. 得意技を身につけさせる | <p>(1)</p> <p>①総合的な英語力を身につけさせる事業を推進する。</p> <p>(2)</p> <p>①高大連携を推進し、理系生徒の育成を進める。</p> | <p>(1)</p> <p>①(ア) 1、2年生グローバル科、3年生グローバルコースに学校設定科目「英語超人」を履修させ、世界基準の英語能力検定である TOEFL において高得点取得をめざし学習させる。</p> <p>(イ) TOEFL テストを受験させる。</p> <p>1年グローバル科 TOEFL ITP レベル 2 (8月・1月)</p> <p>2年グローバル科 TOEFL ITP レベル 1 (8月・1月)</p> <p>3年グローバルコース TOEFL iBT 又は ITP レベル 1(10月まで)</p> <p>(ウ) 週3日朝の8:00～8:30まで外国人英語補助教員によるコミュニケーション英語講座を開講する(長期休業中及び考査期間中は除く)。</p> <p>(エ) 留学生の積極的な受入れ及び外国からの訪問団の受入れを行う。</p> <p>(オ) オーストラリア語学研修(7月)・英国交換留学(3月・10月)・カナダへの訪問(7月)を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>①(ア) 大学の数学講義を受講させる。</p> <p>(イ) 理科の大学教員による出前授業を実施する。</p> <p>(ウ) 科学部の和歌山大学との共同研究を実施する。</p> | <p>(1)</p> <p>① (ア)～(ウ)</p> <p>1年グローバル科 (1月まで) TOEFL ITP レベル 2 (500点満点) 440点以上 10名以上/420点以上 20名/400点以上 40名以上(人数は累計)</p> <p>2年グローバル科 (1月まで) TOEFL ITP 550点以上複数名/500点以上 10名以上(人数は累計)</p> <p>3年グローバルコース (80名受験の場合) TOEFL iBT80点/ITP550点以上 12名 TOEFL iBT60点/ITP500点以上 40名 TOEFL iBT45点/ITP450点以上 64名 (人数は累計)</p> <p>(エ)留学生 10名以上(短期含む)</p> <p>(オ)実施後のアンケートで肯定的な感想 90%以上</p> <p>(2)</p> <p>①5回程度実施 平成27年度の3年生理系選択者 25%以上</p> | <p>(1)</p> <p>①(ア)～(ウ)(△)</p> <p>1年グローバル科 (1月まで) TOEFL ITP レベル 2 (500点満点) 440点以上 5名 420点以上 6名 400点以上 14名 (参考:最高580 550以上1名、500以上2名)</p> <p>2年グローバルコース (1月まで) TOEFL ITP 550点以上 0名 500点以上 1名 440点以上 21名 420点以上 53名 400点以上 68名</p> <p>3年「英語超人」選択者 (iBT チャレンジ 38名/ITP43名受験) TOEFL iBT80点/ITP550点以上 0/0名 TOEFL iBT60点/ITP500点以上 1/1名 TOEFL iBT45点/ITP450点以上 3/32名</p> <p>目標が高く達成できなかったが、海外大学をめざす生徒が複数出ている。</p> <p>(エ)(◎) 短期 英国留学生 5名 短期 米国留学生 6名 (カリフォルニア 5名ワシントン DC1名)</p> <p>長期 米国留学生 2名 (カリフォルニア・バージニア)</p> <p>また、海外からの訪問団をこれより別に2校受け入れた。</p> <p>(オ)(◎) 肯定的な感想 100% 充実した語学研修を実施できた。</p> <p>(2) (◎) 理系選択者 31.7% 昨年度 28.4%</p> |
| 4. 進路指導を強化する | <p>(1)</p> <p>①入学時から各大学の偏差値の情報を提供する。</p> <p>②入学時から進路目標を立てさせる。</p> <p>(2)</p> <p>①学力生活実態調査や外部模試を活用し、進路実現に向け、戦略的な教科指導を行う。</p> <p>② 学力生活実態調査や外部模試の結果から現在の学力と進路目標との距離を把握させ、学習への意欲を高めさせる。</p> | <p>(1)</p> <p>①新入生オリエンテーションにおいて難関大学の偏差値表を配布し難易度や難関大学をめざすことの意味を説明する。</p> <p>②1年生において5月に進路 HR を持ち、自分の進路目標を設定させる。</p> <p>1年生全員を校外で教育産業等が主催する進路説明会等へ参加させる。</p> <p>(2)</p> <p>①(ア) 1、2年において学力生活実態調査を年1回(4月)実施する。正答率が悪かった問題について各教科で解説するとともに、生徒の弱点を分析しその後の教科指導の戦略を練る。</p> <p>(イ) 1・2年生において外部模試を年2回(7月・11月)に実施し、正答率が悪かった問題について各教科で解説するとともに、生徒の弱点を分析しその後の教科指導の戦略を練る。</p> <p>② 1・2年生においては学力生活実態調査及び外部模試の結果と志望大学学部との距離を把握させ、担任が個別の進路指導を行う(9月・11月)。3年生においては、外部模試の結果を基に担任が個別の進路指導を行う(7月・12月及び随時)</p> | <p>(1)</p> <p>①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供に対する肯定的回答 生徒 80%/保護者 80% ・進路相談に対する肯定的回答 生徒 70%/保護者 70% <p>(2)</p> <p>教育産業模試(11月)偏差値平均 1年グローバル科 国 56 以上/数 55 以上/英 60 以上 1年普通科 国 53.5 以上/数 53 以上/英 53 以上 2年グローバル科 国 58 以上/数 55 以上/英 60 以上 2年普通科 国 53 以上/数 53 以上/英語 53 以上</p> <p>27年度大学センター試験の結果 各科目とも偏差値平均 52 以上</p> <p>27年度入試における難関大学現役合格数(超難関大学) 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 計 15 以上</p> | <p>(1)</p> <p>①②(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供に対する肯定的回答 生徒 88.5%/保護者 78.8% ・進路相談に対する肯定的回答 生徒 86.6%/保護者 82.3% <p>今後もこの数値を高めていく。</p> <p>(2) (△)</p> <p>1年グローバル科 国語 54.7/数学 51.6/英語 56.5 1年生普通科 国語 52.2/数学 51.8/英語 50.6 2年グローバル科 国語 52.3/数学 48.7/英語 54.5 2年生普通科 国語 48.3/数学 47.9/英語 49.8</p> <p>ただし、2年数学は来年度選択する生徒</p> <p>27年度センター試験は6科目について偏差値 52 以上であった。またその他の科目は1科目を除いてほぼ平均点に達していた。(◎)</p> <p>(超難関大学) 早稲田 1・神大 1・北大 2・米国 2 計 6名 (△)</p> |

府立和泉高等学校

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
| | <p>(3) ①外部講師を招聘し将来への高い志を持たせる。 ②1年次より難関大学の見学を行う。</p> <p>(4) ①教育産業担当者による進路講演を実施する。 ②教員の進路指導のスキルを磨く。</p> | <p>(3) ①社会の第一線で認められている人材や難関大学に合格した卒業生などによる講演会を実施する。 ②(ア)1年生において関西方面大学見学ツアーを実施する(6月)。 (イ)全学年希望者を対象に関東方面大学見学ツアーを実施する。</p> <p>(4) ①(ア)新入生オリエンテーションで進路講演を実施する。 (イ)4月の学力生活実態調査の結果を受けて、進路目標達成のための学習方法についての講演を実施する。 ②教育産業と連携し、進路情報や今後の学習指導について助言を受ける。</p> | <p>(難関大学) 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計75以上 和歌山大・関大等 計120以上 (合格数は累計)</p> <p>(3) ①実施後のアンケートで肯定的な回答70%以上 ②(ア)実施後のアンケートで肯定的な回答90%以上 (イ)関東方面の大学を複数名受験</p> <p>(4) ①(イ)及び② 年3回(5月、8月、12月)に実施</p> | <p>(難関大学) 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計56(△) 和歌山大・関大等 計127(○)</p> <p>(3) ①(○)講演後に作文を書かせたが、感動を表す記述が多数みられた。 ② (ア)長期休業中に見学に行かせることとし、本年度より実施しない事とした (イ)(○)大学ツアーは参加希望者少数により未実施となったが、関東方面の大学を複数名受験する予定</p> <p>(4)(○) ②年3回実施した。</p> |
| <p>5. 心身の障がいや家庭環境などの課題によって修学が困難な生徒を支援する</p> | <p>(1) ①必要に応じて支援チームを組織する。 (2) ①(配置が決まれば)スクールカウンセラーを活用する。 ②支援が必要な生徒の情報共有を図る。 (3) ①授業日において教育相談室の開放をする。</p> | <p>(1) ①外部機関(医師、府教委及びカウンセラー等)、校長、教頭、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。 (2) ①(ア)スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。 (イ)スクールカウンセラーから教員が指導助言を受け、支援が必要な生徒及び保護者への教育相談を行う。 ②毎学期末に就学対策委員会を開催し、支援が必要な生徒について情報共有する。必要に応じて全教員で情報共有し、対策を周知徹底する。 (3) ①教育相談係を中心に、授業日の毎昼休みに教育相談室を開放し、生徒の相談に応じる。</p> | <p>(1)(2)(3) 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)の肯定的回答 生徒・保護者とも80%以上</p> | <p>(1)(2)(3)(○) 学校教育自己診断(教員は親身になって相談にのってくれる)の肯定的回答→生徒88.3%。自己診断では生徒の満足度で成果を測る事とし、保護者には質問項目を設けなかった。</p> |
| <p>6. 教育効果を向上させるため校務改革を実行する</p> | <p>(1) ①教科主任会を定例化し、学習指導を充実させる。 (2) ①将来構想検討委員会(本校の課題分析と教育活動活性化のための施策を立案する校内組織)を定例化する。 ②若手教員を登用する。 (3) ①学年主任と教科主任の権限と責任を明確にする。 ②各科目の担当者を置く。 (4) ①学校協議会を各方面から貴重な提言を得られる機会とする。</p> | <p>(1) ①教科主任会を週1回時間割の中に組み入れ、定例化する。教科主任は学習効果を上げるという責任を自覚し、課題解決のための施策を打ち出す。 (2) ①学校教育自己診断の結果など分析し、必要な教育施策を企画する。 ②若手教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、将来構想検討委員会を活性化させる。 (3) ①学年主任と教科主任の主たる権限と責任事項を明確にし、互いに連携を取りながら生活指導及び教科指導にあたる。 ②教科主任の下に各科目の学習指導及び成績評価に責任をもつ科目担当者を置き、科目指導を戦略的に進める。 (4) ①(ア)年3回(5月・8月・1月)実施する。 (イ)学校協議委員以外にオブザーバーとして、卒業生等、教育産業の代表者を招聘する。</p> | <p>(2) 1つ以上の新しい企画を実行する。 (3) 1・2学期の定期考査終了後に、学年主任、教科主任及び当該学年の科目担当者による会議を開き、今後の教科指導について戦略を練る。 (4) 保護者、同窓会、教育産業、地元中学校進路担当者、大学関係者、卒業生等の各代表を委嘱</p> | <p>(1)(△) 週1回教科主任会議を実施。学習効果を上げるという課題解決のための施策を打ち出すところまでは至らなかった。 (2)(○) 将来構想委員会を廃止し企画会議により、今まで実施していた企画の整理・提案した。本年度新たにイングリッシュキャンプを実施し、また、職員会議にて年末特別講習の導入を決定し実施した。 (3)(○) 学年主任がリーダーとなり各教科と連携を取りながら戦略を練った。 (4)(○) 活発な意見交換をしていた。</p> |